様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月３１日現在

機関番号：３４１０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１７２００２４
研究課題名（和文）　高齢者・障がい者の聖地旅行とそれを支えるボランタリズムの相互作用に関する研究
研究課題名（英文）　Research on the Interaction of Pilgrimage Tourism of the Elderly and Disabled People and its Supportive Voluntarism

研究代表者
板井　正斉（ITAI MASANARI）
皇學館大学・現代日本社会学部・准教授
研究者番号：40351225

研究成果の概要（和文）：高齢者・障がい者の聖地旅行と、それを支える地域住民のボランタリズムから、「聖地らしさ（オーセンティシティ）」の現代的な多様性を明らかにする調査活動を実施し、神社・仏閣への旅行にはハード面での整備とともに、旅行をボランティアが支えることで相乗的に当事者の満足度を高める可能性のあることを指摘できた。その成果の一部は、板井正斉『ささえあいの神道文化』弘文堂、2011 年としてまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：I have had various field works and surveys to clarify the contemporary diversity of the Authenticity through the sacred ground tours of the elderly and disabled people with the support of the local people.　I have attained certain outcomes of the possibilities of combined satisfaction of the people concerned. It was found out that their satisfaction was greatly promoted by the volunteers' supports, as well as by accessibility from the viewpoint of equipment and service in temples and shrines.
The outcome of this research was published in The Shinto culture of Mutual Supports (Masanari Itai, Kobun-Do, 2011), including other papers and presentations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１０年度	600,000	180,000	780,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：宗教学
キーワード：宗教社会学

１．研究開始当初の背景

(1)　聖地を訪れる巡礼者の研究は、従来、歴史学や宗教学において成果が蓄積されてきた。最近では、日常性から非日常性への移行という「聖なる旅」を「オーセンティシティの追求」という枠組みで捉え、あらためて社寺や教会、殉教地などの場所が持つ「聖性」の現代的な変容と再構築を「ホスト」と「ゲスト」の関係を通して明らかにする研究も見られる［山中他 2006］。しかし「聖地らしさ」を求めた旅行が「誰でもの祈り」として容易になったにも関わらず高齢者・障がい者につ

いては、その問題意識にすら含まれていなかった。

(2)　その一方で、1990 年以降「高齢者・障がい者の旅行」に関する研究は、福祉文化論をはじめとする社会福祉学領域において取り上げられるようになり、物理的な対応のみならず、ボランタリズムの必要性が指摘されてきた［一番ケ瀬 1997］。しかし、聖地旅行たる由縁の「聖地らしさ」への視点は乏しいため、高齢者・障がい者の旅行と宗教文化の本質的な関連性は見えてこなかった。

２．研究の目的

本研究では、高齢社会を迎え、社会的重要性を増す高齢者・障がい者の聖地への旅行と、それに関わる NPO や地域住民のボランティア活動を通して、「聖地らしさ」の多様性を明らかにすることを目的とした。そこから、現代的な社会課題に対する宗教文化の役割を実証的に捉えられると考えた。

３．研究の方法

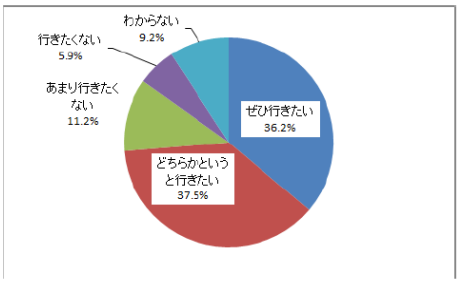
本研究は、当事者視点に立った効果的な研究を進めるために、高齢者・障がい者への旅行情報や、聖地での参拝ボランティアに実績のある NPO 法人「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター（以下 BFTC)」による専門知識の提供および研究支援が必要であった。そこで、研究者自らが旅行者・介助者となって BTC 専門員（障害当事者）との同行調査や、BTC 利用者へのアンケート･インタビュー調査などの協力体制を構築し、研究計画を遂行した。

４．研究成果

「誰でもの祈り」として高齢者・障がい者の聖地への旅行について、当事者へのアンケート調査と、それにもとづいて先進事例の現地調査を当事者とともに行った。

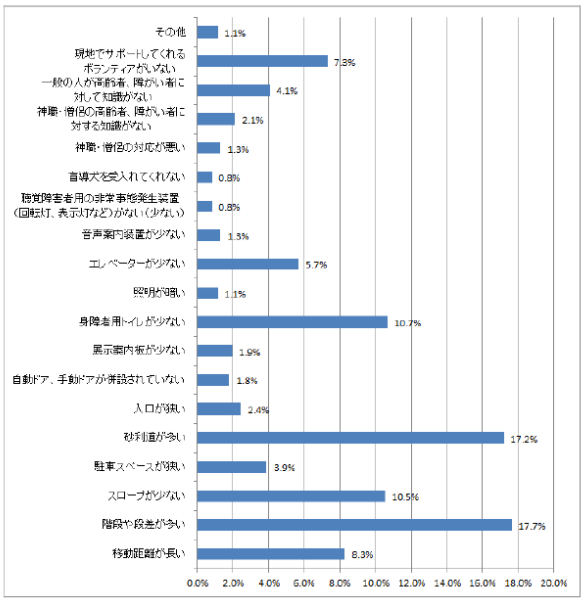
アンケート調査からは、先行研究と同様に、神社･仏閣への旅行のニーズは高く（図１）、ハード面での整備が最も重要であることを重ねて理解することができた（図２）。

問６　あなたは神社・仏閣へ旅行に行きたいですか。次のうち最も当てはまるものを１つだけ選んでください。



（図１）

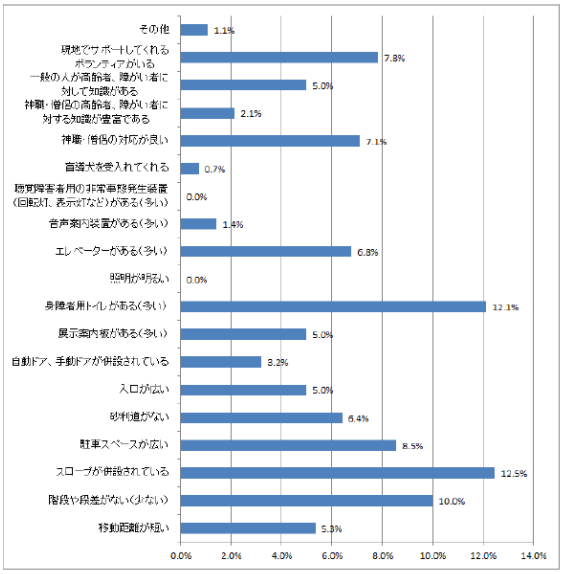
問８－３　神社･仏閣を旅行する際、困ったことで当てはまるもの全てを選んでください。（複数回答可）



（図２）

それと同時に、本研究が注目している高齢者・障がい者の聖地旅行をボランティアが支えることで相乗的に当事者の満足度を高める可能性のあることも明らかにできた（図３）。

問８－４　神社・仏閣を旅行する際、良かったことで当てはまるもの全てを選んでください。（複数回答可）

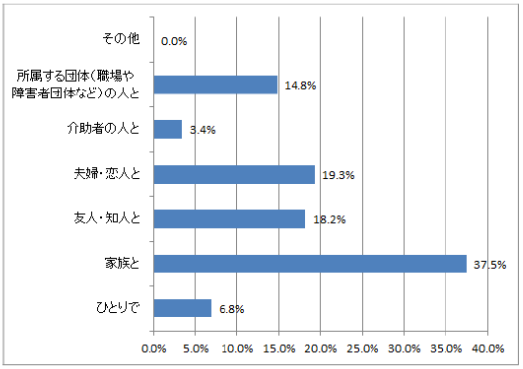


（図３）

アンケート結果に基づいて実施した先進事例への現地調査では、取り上げた全ての聖地で高齢者・障がい者のアクセシビリティを高める取り組みがなされており、沖縄・出雲・旭川では、ボランタリズムによるサポートが有効的に機能していることを確認できた。

その相互作用による可能性を２点にまとめると、まず近年の聖地をめぐる観光ブームがあげられる。「世界遺産」「聖地巡礼」といったキーワードが、神社・仏閣への旅行意識を高めており、その周縁では「パワースポット」「スピリチュアルツアー」「アニメの聖地」といったサブカルチャー的な盛り上がりも見られる。あらためて神社・仏閣へのアクセシビリティが広く一般的に求められている動向からは、すでにそこを訪れる人々に高齢者・障がい者の存在を無視できなくなっていると考える。マーケットという視点からすると、今回のアンケート調査で高齢者・障がい者が単身で旅行することは少なく、多くが家族等とともに訪れることが指摘できた（図４）。それは、一人の高齢者・障がい者のアクセシビリティの向上が、２倍、３倍の旅行者・参拝者へとつながることにもなる。

問７－２（問７で①を選択した方はお答えください）どなたと一緒に旅行されましたか。当てはまるもの全てを選んでください。（複数回答可）



（図４）

もう一点は、それを支えるボランタリズムの具現化として、2010 年に「日本バリアフリー観光推進機構」が立ち上げられたことは見逃せない。機構は、バリアフリー旅行を一定の水準で全国的にサービスできる基盤をつくるために、総務省の地域 ICT 広域連携事業から組織化された。機構には、現在、全国の 14 団体がネットワークを組んでいる。本研究でも現地調査の際、5 団体から事前にアドバイスをもらい、直接聞き取りに訪問をした。このような団体の存在は、聖地旅行をめぐる「聖地らしさ」にも今後大きな影響を与えることが推測できる。

今後の課題としては、「聖地らしさ」の多様性について、聖地ごとの個別な分析が求められる。今回の研究成果を活かして、「誰でもの祈り」にこだわりながら、「祈る側」と「祈りを支える側」の関係性のさらなる考察を深めたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

①板井正斉、聖地旅行をめぐる「支え合い」の歴史－伊勢参宮の「施行」に見える高齢者・障がい者の事例－、皇學館大学社会福祉学部紀要、12、2010、31-44
②板井正斉、「新たな支え合い」をめぐる伝統的価値観に関する一考察～＜空間性＞の活用の可能性～、福祉文化研究、査読有、19、2010、100-113
③板井正斉、現代神道と社会課題をめぐる近年の研究動向―福祉から社会貢献へ、まなざしの軌跡―、日本学論叢、1、2011、153-174

〔学会発表〕（計６件）

①板井正斉、伝統的共同体に見る「新たな支え合い」の形、日本地域福祉学会、2009 年 06 月 21 日、中部学院大学
②板井正斉、聖地旅行をめぐる「支え合い」の歴史－高齢者・障がい者の事例－、日本宗教学会、2009 年 09 月 12 日、京都大学
③板井正斉、「伝統文化の継承」に見る神社神道の社会的役割―社会貢献と福祉文化実践の整理―、神道宗教学会、2009 年 12 月 05 日、國學院大學
④板井正斉、「新たな支え合い」をめぐる伝統的価値観に関する一考察、日本福祉文化学会、2010 年 02 月 28 日、早稲田大学
⑤板井正斉、NPO が豊かにする宗教性－伊勢神宮だから参加する人々－、日本宗教学会、2009 年 09 月 05 日、東洋大学
⑥板井正斉、伊勢神宮だから参加する人々－文化的空間が行動に影響を与えるのか－、行動経済学会、2011 年 12 月 10 日、関西学院大学

〔図書〕（計２件）
⑦稲場圭信, 板井正斉,他、世界思想社、社会貢献する宗教、2009、220-236
⑮板井正斉、弘文堂、ささえあいの神道文化、2011、235

６．研究組織
(1)研究代表者
板井　正斉（ITAI MASANARI）
研究者番号：40351225

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：